

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175300241		
法人名	あすなろホーム		
事業所名	あすなろホーム北本		
所在地	埼玉県北本市中丸4-51-5		
自己評価作成日	平成29年9月18日	評価結果市町村受理日	平成29年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成29年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・目の前に緑地公園があり四季が楽しめる。</li> <li>・施設の花壇で野菜や季節の花を育てている。野菜は収穫し食事として提供している。</li> <li>・広い屋上で外気浴ができる。</li> <li>・相手の立場に立って考えるよう心掛けている。</li> <li>・常勤の看護師と音楽療法士がいる。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>安心して生活していただくという理念を持ち、職員は明るく、コミュニケーションも取れ、長期勤務者も多い。庭にある畑や花壇の世話は、環境委員が自主的に行っている。利用者支援のために、ケアカンファレンスに休み返上で参加する職員もいる。当事業所には、看護師が常駐のため、提携医との連携も取れ、安心な医療体制となっている。事業所内の整理整頓、清潔維持には厳しく、当事業所は、本社の3S運動より先に整理、整頓、清潔を実践していた。管理者は、音楽療法士の資格も持ち、現在、歌の他、打楽器でも脳の活性化に効果がないか等検討している。また、困難事例に対しては、「なぜ？」の視点で検討し、夜、なかなか寝てもらえないと思っていた方の生活を表を使って調べると、よく寝ていたことに気が付いたケースもあり、利用者の生活支援に活かしている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時社の理念とホームの目標を唱和し、業務に入っている。	理念は毎朝、役割として、ある利用者に職員の前で唱和の先導をしてもらい共有している。職員は「安心して生活していただく」の理念をケアカンファレンスの時にも常に意識して参加している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や敷地内清掃時などに、公園を散歩されている方に挨拶させて頂いている。地域の清掃活動や夏祭りに参加している。	隣が緑地公園のため、朝の散歩では近隣の方と顔馴染みとなっており、フェンス越しに野菜をいただくこともある。自治会の夏祭りや盆踊りにも参加している。2～3ヶ月に1度は民謡等のボランティアも来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は実践を通じて積み上げている、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見は、職員に報告してケアに生かせるよう努力している。	会議には自治会副会長、民生委員、地域包括支援センター、市高齢介護課は毎回参加。家族会の代表が年1回参加している。ヒヤリハット・事故報告では市担当者より意見をもらっている。外部評価の報告もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業所連絡部会に参加している。事故報告書を市へ提出し、指導をいただきケアに生かせるように努力している。	市役所内で、地域密着型サービス7事業所の利用者作品の展示会がある。当事業所は四季をテーマにした作品を展示する。地域密着型サービス事業者連絡協議会も市役所で開催され情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士が随時話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。必要と思われるときは、家族に相談している。玄関の施錠は、入居者の安全を第一に考え行っている。(交通量の道路が側にある等)	身体拘束廃止委員会の話し合いで、拘束をしない方法について検討している。転倒防止の為仕方なく夜間ベッド柵4点を付ける場合は、家族と相談し同意を得ている。ヒヤリハットが多いほど事故防止につながると考え、職員には多く書くよう話している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や社内勉強会に参加し、職員間で情報共有するなど、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所に相談、申し込みをし活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に内容を細かく説明し、質問があればいつでも対応できるよう、心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	イベント時に家族会を実施し、家族の不安や要望を聞ける機会を設けている。	運営推進会議や日々の面会時に意見を聞いている。敬老会の時に家族アンケートを実施し、意見箱も設置している。利用料を請求する時に利用者の写真と共に居室担当者の一言も書き添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1カ月に1回代表者会議、2カ月に1回全体会議を設け、各委員会の事を報告、相談している。	個人面談では、事前に「入居者に何を提供したいか」「今後どのようになりたいか」を書いてもらい、職員が言い易い職場環境を目指している。環境委員は畑の手入れを自主的にやっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回施設長会議を実施。各施設の施設長と本社間で情報共有し。職場環境の整備等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や、事例発表会を行っている。勉強会の内容はどのようなものか、職員にアンケートを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他地域密着型施設と一緒に、作品展を定期的に実施している(市役所協力有)。また、「地域密着ネットワーク」に参加し、他事業所と情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人の要望や、困っていることなどを聞き、安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所して頂いたり、電話対応しながら不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族それぞれの考え、思いを受け止めて、その人にあったサービスができるよう考え、実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じホームで共同生活している者とし、食器拭きなど、本人が出来ることをして頂きながら支援できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会可能と伝えたり、医療面の相談を随時家族としている。また、行事等に参加していただき、家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染んでいる場所、病院など、ホームに縛られることなく生活して頂けるよう努めている。	友人との手紙のやりとりがある方には、返事のサポートをして関係継続の支援をしている。外泊できる方は少ないが、お墓参りに行かれる方はいる。家族の面会時に一緒に買い物や外食をする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動などを通し、利用者同士が会話できるよう声をかけたり、関わり合える環境を作ったりしながら、お互いに支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気楽に遊びに来て頂けるよう、お声をかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの症状に合わせて、その人らしさを大切にして、いつでも関わって行きたいと心がけている。	入居時の意見や要望ははっきりしているので、その情報を大切にしている。認知症の研修に参加し、実践に活かす努力をしている。夜寝ない方のケースでは、日中活動の様子等を表にまとめ、暮らしの把握を行った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方やケアマネ等から話を聞き、生活環境をなるべく変えず生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申送りや月1回のカンファレンスなどで、常に現状が変わるので良い状態の支援ができる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者様と家族の要望を聞き生活全般の手助けができるよう努めている。	常に家族意見は聞いている。3ヶ月に1回見直しのケアカンファレンスを実施。居室担当がアセスメント後、計画作成が毎月評価する。カンファレンスには管理者、主任、看護師、職員と休みの職員の自主参加もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の普段の何気ない動作や行動など、申送りや記録などで情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族の状況に合わせて、日常の生活動作に対する手助けなどを支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる、利用者との交流を行っている。地区のお祭りなど、利用者が交流できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療を受けている。 受診・通院が必要な時は、家族了承のもと、通院介助を行っている。	かかりつけ医の通院付き添いは家族にとって負担が大きく、内科は訪問診療利用となっている。泌尿器科等専門科受診は通院としている。看護師が常駐で、提携医と緊密に連携して、安心の体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職は相談しながら、日々の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	電話や面会時に相談し、情報交流している。職員が見舞いに行き、様子を把握できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思を組み、家族、かかりつけ医、施設側と話し合い、方針を共有できるよう努めている。	入居時、家族には、終末期の対応として事業所でできる事、できない事を細かく説明している。提携医との話し合いで、終末期対応を検討していく。看護師常駐は、緊急対応や医療対応で安心な体制となっている。看取り経験は1名である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習、勉強会を行い急変時の対応に備えている、定期的な訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者を交え毎月1回、様々な訓練を行っている。運営推進会議を通して、自治会との協力をお願いしている。	消防署立ち会いで年2回、昼、夜想定で避難訓練を実施。自主避難訓練は、毎月1回、地震、竜巻も想定して実施している。ハザードマップより水害はない地域と確認済み。防災係が、避難方法を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの訴えに耳を傾け、人格や尊厳をそこねないような言葉かけに配慮している。	書類は事務所のロッカーや目につかない衣装箱にて管理している。パソコン使用者も限定。排泄の誘導は、排泄チェック表でタイミングを把握し、プライバシーに配慮した声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを受け止め、自己決定できるように支援している。主張できない人には、その人の立場に立って考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションをとりながら、日々の生活を本人のペースに合わせ、希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にヘアカットをお願いしたり、洋服選びを職員と一緒にしたり、その人に似あうように支援提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けを職員と一緒にして頂いている。食事会を楽しんだり、ホームで採れた旬の野菜を召し上がり楽しめるよう配慮している。	毎日の食事は外注で、カロリー計算したものを提供している。下膳、食器洗い等片付けは、利用者も一緒にしている。行事の時は、いつもの食事ではなく、ケータリング利用や弁当購入等で雰囲気も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは専門職に依頼している。食事と水分は一人ひとり状態を考え、摂取できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合わせた声かけで、義歯の洗浄や口腔ケアを支援している。定期的に訪問歯科診療を受けていただいたり、歯科衛生士による口腔ケアも受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握し、声かけなどしながら、できるだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。	排泄チェック表より定時に誘導しているが、もぞもぞして立とうとする等様子から判断しての誘導もする。利用者の気持ちに寄り添えるよう、濡らしたパッドを職員が体験する講習も実施した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の体調や希望に合わせて、食材を一口大や刻み等に行っている。 ・体操等の運動や、マッサージを行っている。 ・かかりつけ医と相談し、下剤等の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調や希望に合った入浴を心がけている。 リフト浴を使用し安全に、ゆっくりと入浴して頂けるよう支援している。	体調に合わせて、希望があれば毎日入浴することができる。10:00から15:00の間、いつでも何度でも入れる体制を取っている。リフト浴を利用する場合は、職員がその日の様子をみながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの習慣や状況、体調に応じ休息して頂いている。 ・夜間不眠を訴える場合は、安心して眠れるように付き添ったり、かかりつけ医に相談し、薬を処方してもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬リストを作り、職員がいつでも確認できるようにしている。 職員同士が共有できるよう、送りノートや介護記録を活用し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々に合ったお手伝いをして頂き、感謝を伝えている。 ・職員と会話を楽しみ大きな声で笑い合える環境作りを心かけている。 ・レクリエーションやボランティアによる余興などで楽しんでいただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者、家族の希望により、定期的に外出されている方もいる。 天気のよい日には、屋上や公園を散歩したりしている。	2階の利用者は、広い屋上に自由に出て外気浴を楽しむことができる。7人乗りの車と車椅子対応の車があり、車での外出もできる。春は花見に出かけられる様にしている。新人職員の教育や利用者の体調不良で、今は皆での外出は難しい。	新人職員も多くケアの実践を身に付けることが優先されているが、少しずつ家族や地域の方と協力しながら外出支援が充実することを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がいないので、ホームで一括管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族の許可があり、本人の希望があればかけていただいている。かかってきた電話は本人に取り次いでいる。毎年、年賀状を家族に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の物を飾ったり、壁には利用者の写真や作品を飾っている。居間兼食堂には、利用者と共に制作した作品や、行事で撮った写真を飾っている。	玄関には吹き抜けがあり、広々している。ボードには利用者が書いた絵が飾ってある。利用者がリラックスできるよう、食事の時にリラクゼーションの音楽が流れ、安眠の音楽もある。生活の一部として、できる方は、モップ掛けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーには、ソファ、椅子があり、おしゃべりをしている方や、新聞を読んでいる方など、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、好みのもを持参していただき、居心地よく過ごしていただいているよう配慮している。	ベッド、エアコン、照明、カーテン、クローゼット、洗面台が標準装備。居心地良く過ごせるよう、使い慣れたチェストやテレビ、仏壇、家族の写真等を持ち込みしている。居室でラジオを聞く方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に合った支援を行い、安心して生活できるような環境づくりに心がけている。廊下には手すりが設置され、床はバリアフリーになっている。居室の扉には、見えやすい表札をつけている。		